平成３０年度　第１回社会教育委員会議

日時　平成３０年５月１８日（金）１０：００～１２：００

場所　生涯学習総合センター　３階 ホール

１　北九州市事務局職員紹介

２　市民文化スポーツ局（局長）あいさつ

３　議長あいさつ

４　議題

（１）平成３０年度　社会教育関係主要事業について　［資料１］

（２）家庭教育の支援のあり方と地域資源との連携について　［資料２］

５　その他報告

平成30年度社会教育関係主要事業について

資料1

施策　１　学習機運の醸成・情報提供と相談体制の整備

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業(取組) 番号		名称	事業詳細 事務事業名（３０年度予算額）	事業概要	担当部署（局・課）
1	（1）	1	（仮称）「北九州学びの環パートナーシップ協議会」の形成	民間教育事業者（カルチャーセンター等）との生涯学習ネットワーク構築事業（601千円）	市民に対し、講座等の学習機会を提供する主体が相互に連携し、事業の効果的な実施や市民にとってアクセスしやすい情報提供の仕組みなどを検討し、実効的なネットワークを構築するための会議を設置するもの。 ２　会議の名称 「北九州“学びと活動の環”推進ネットワーク」を考える会 ３　会議の概要 ネットワークを、①全体ネットワーク、②各プロジェクトのネットワーク、③中間的なネットワークなど、複層的なものとして位置づける。イメージとして、全体ネットワークは緩やかな繋がりで、顔合わせや情報交換を行い、各プロジェクトについては、強い繋がりで個別に協議を進めていくこととする。（民間教育事業者等との連携プロジェクト、学びと活動のマッチング、家庭教育支援プロジェクト） ４　事業効果 （１）行政と民間教育事業者の学習情報を体系的・総合的に収集整理することにより、市民に提供しうる学習情報が拡充され、また情報の一元化により、市民の利便性が向上する。 （２）企画段階からの情報交換により、重複している事業の整理が図られる。 （３）共同事業の実施により、ネットワーク構築の足がかりとする。 ５　会議構成員 大学関係者、企業関係者、市民活動団体関係者、放送大学関係者、市民センター関係者等	市文・生涯学習課
2	（2）	3	市民センターだより（館報）の発行	生涯学習活動促進事業の一部（17,125千円）	地域住民に学習や地域に関する情報を提供し、地域住民との連携を図るため、広報紙「市民センターだより（館報）」を発行する。	市文・生涯学習課

平成30年度社会教育関係主要事業について

施策　１　学習機運の醸成・情報提供と相談体制の整備

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業(取組) 番号		名称	事業詳細 事務事業名（３０年度予算額）	事業概要	担当部署（局・課）
3	（２）	５ ６	「まなびネットひまわり」～北九州市生涯学習情報提供システム～の充実 人材バンクの充実 ホームページ掲載	生涯学習活動促進事業の一部 （17,125千円）	生涯学習についての理解やボランティアへの熱意を持ち、持っている知識や経験、技能を地域社会で積極的に役立てようとする意欲のある個人又は団体を講師又はボランティアとして登録し、ホームページにて広く市民に紹介するほか、講座検索機能を通じて情報提供を行う。	市文・生涯学習課
4	（２）	７ ８ ９	生涯学習情報「チャレンジガイド北九州」ホームページ掲載 生涯学習総合センターだより「まいなび２１」の発行 生涯学習総合センター学習相談事業	生涯学習総合センター事業の一部 （4,887千円）	１　市内の行政機関や学校等で実施される講座、講演会等の生涯学習事業を分類ごとに「チャレンジガイド北九州」としてまとめ、４月、８月、１２月の年３回ホームページにて更新する。 ２　生涯学習総合センター主催事業や生涯学習関連情報等を掲載した市民向けの情報誌「まいなび２１」を年４回（年間14,000部）発行予定 発行　　平成３０年　４月 　　平成３０年　７月 　　平成３０年１０月 　　平成３１年　１月 ３　施設ボランティアの協力のもと、学習相談コーナーを定期的に開設し、生涯学習に関する様々な相談にきめ細かく対応する。	市文・生涯学習総合センター

平成30年度社会教育関係主要事業について

施策　２　市民一人ひとりに対する多様な学習機会の充実

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業(取組) 番号		名称	事業詳細 事務事業名（３０年度予算額）	事業概要	担当部署（局・課）
1	（２）	①１５	子ども文化ふれあいフェスタ	優れた文化・芸術との“出会い”創造事業（10,000千円の一部）	学校での箏、伝統芸能の体験講座や音楽・演劇のアウトリーチなど様々な文化体験を通して、子どもたちの豊かな情操を養うとともに、芸術文化に対する関心を高め、未来の文化の担い手として育成する。 また、例年「子ども文化ふれあいフェスタ」として、文化団体等が企画したワークショップ等を実施し、芸術文化に対する関心を深める取り組みを行っている。なお、今年度は事業検証を行うため、休止を予定している。	市文・文化企画課
2	（２）	①１８	青少年体験活動等活性化事業	青少年体験活動等活性化事業（2,891千円）	市や関係機関、市民団体等が実施している青少年の様々な体験活動の情報を集約し、情報発信することで、体験活動の機会や場の紹介・提供を行うとともに、次代の青少年育成活動の担い手となる青年リーダーの養成のほか、家庭や保護者に対して青少年の体験活動の有益性を啓発することで、さらなる青少年の健全育成環境づくりを図る。 【進捗状況】 ・青少年体験活動冊子「キッズチャレンジ２０１８」（夏号・冬号）を全小学生に配布。 ・青少年団体等の指導者養成として、１１月に「やさしいレクリエーションの基教室」を開催。 ・プレイパーク（冒険遊び場）の開催・支援や、外遊びの広報・啓発事業を実施。	子家・青少年課
3	（２）	①１９	チャレンジ100キロ～歩け北九州っ子若武者の旅～	青少年体験活動等活性化事業（2,891千円）	小中学生が青少年施設に宿泊しながら、５日間をかけて市内の主要な山の登山など、約100キロの道のりを歩く「チャレンジ100キロ」を実施し、心身ともにたくましい子どもを育成する。 【進捗状況】 平成３１年３月２５日(月)～２９日(金)実施予定（参加者80人）	子家・青少年課

平成30年度社会教育関係主要事業について

施策　２　市民一人ひとりに対する多様な学習機会の充実

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業（取組） 番号		名称	事業詳細 事務事業名（３０年度予算額）	事業概要	担当部署（局・課）
4	（２）	①２０	野外教育等推進事業	青少年体験活動等活性化事業（2,891千円）	青少年教育施設の特色や豊かな自然環境を生かしながら、キャンプや野外調理、クラフトワーク等の魅力あるプログラムを提供することで、子どもたちの自主的・主体的な参加を促し、青少年の健全育成を図る。 【進捗状況】 青少年教育施設において、キャンプや野外調理、クラフトワーク等のプログラムを提供。	子家・青少年課
5	（２）	①未掲載	未掲載	北九州市・南九州市子ども交流事業（534千円）	北九州市と南九州市（鹿児島県）の子ども（小学4年生～中学3年生）が、互いの市を訪問し、“ものづくりのまち”と“農業のまち”という、それぞれの特徴を生かしながら、両市の豊かな自然や歴史、産業の学びを通じた交流を行う。 【進捗状況】 平成３０年度は、８月７日（火）～９日（木）の日程で、北九州市の小学４年生～中学生の３０人が南九州市を訪れ、交流を図る。	子家・青少年課
6	（２）	①未掲載	未掲載	ユースステーションの運営（45,591千円）	中・高校生をはじめとする若者が、学習や体験、スポーツ・文化活動、仲間との交流等を通じて、自己を発見し、社会性や自立性を身につける場として、コムシティ地下１階に「ユースステーション」を運営している。 〇気軽に立ち寄れ、楽しみながら交流できる場の提供【交流】 〇さまざまな遊びや体験活動の場の提供【遊び・体験】 〇自ら成長していくための学びの場の提供【学び】 〇若者に係る情報の発信【情報発信】 【進捗状況】 ◆利用状況 ２９年度　延べ７１，５１８人 ◆利用区分としては、フリースペースの利用が最も多く、３４，６０３人（４８．４%）で、次いでゲームコーナー、学習スペースとなっている。 ◆平成２８年度からは指定管理者制度を導入し、民間のノウハウを活用することで事業の拡充を図るなど利用者サービスの向上に努めている。	子家・青少年課

平成30年度社会教育関係主要事業について

施策　２　市民一人ひとりに対する多様な学習機会の充実

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業（取組） 番号		名称	事業詳細 事務事業名（３０年度予算額）	事業概要	担当部署（局・課）
7	（２）	①未掲載	未掲載	子ども・若者応援センター「YELL」の運営（23,100千円	不安定な雇用やニート、不登校など社会生活を円滑に営む上で困難を抱える子ども・若者を対象に相談や関係機関の紹介、情報提供など、総合的にサポートしていく総合相談窓口として「子ども・若者応援センター『YELL』」を運営する。 【進捗状況】 ◆来所相談延件数 平成２９年度相談実績・相談延件数２，８９７ 件（うち新規来所相談実人数１５１人） ◆プログラム利用者数 平成２９年度　延べ１，２３６人	子家・青少年課
8	（２）	①未掲載	未掲載	「北九州市『青少年の非行を生まない地域づくり』推進本部」運営事業（35,700千円）	青少年の健全育成を進めていくには、地域社会全体で青少年の健やかな成長や自立を支える環境づくりを推進していくことが必要不可欠である。 そこで本市では、地域全体で青少年を見守る気運を醸成するため、平成24年7月、関係機関（市関係部局、警察、地域団体等）で構成する「北九州市『青少年の非行を生まない地域づくり』推進本部」を設置した。この推進本部において、全市的、全庁的な立場から、「非行防止対策」や「立ち直り支援対策」を検討し、総合的かつ効果的に推進していく。 ◆ 規範意識の醸成や地域における見守り活動の支援など、「非行防止」全般に向けた各種取り組みの検討・推進 ◆ 非行を犯した青少年の「立ち直り支援」に向けた各種取り組みの検討・推進 ◆ 啓発活動及び有害環境の除去など、「薬物乱用防止」全般に向けた各種取り組みの検討・推進 【進捗状況】 ◆ 非行防止対策においては、非行防止教室をはじめとする啓発活動を積極的に行った他、夏休み期間中には、全市一斉パトロールや声かけ深夜パトロールを実施した。 また、地域で見守り活動に取り組む少年補導委員連絡協議会や青少年育成協議会、地域会議等の取り組みを支援すると共に、青少年関係団体や深夜に営業をしている企業などが参加する「子どもの安全を守る『はいかい防止声かけネットワーク』」の活動として、小中学生を深夜はいかいの危険から守る取り組みを行った。 ◆ 立ち直り支援対策としては、北九州市青少年支援拠点「ドロップイン・センター」を運営し、中心市街地で深夜はいかいを行う青少年への声かけや立ち直りのための支援を行った。 また、非行歴のある青少年の立ち直りを支援する「協力雇用主」事業を推進するため、見舞金制度や表彰制度の運用、雇用主を対象とした研修会を実施した。さらに、保護観察所と協力しながら保護司との連携強化に取り組んでいる。 ◆ 薬物乱用防止対策では、小中学校や地域団体向けに薬物乱用防止教室を開催した他、危険ドラッグの販売が懸念される繁華街等において、地域団体自らパトロールや薬物乱用防止啓発活動に取り組む「薬物乱用防止モデル地域事業」を実施した。	子家・青少年課

平成30年度社会教育関係主要事業について

施策　２　市民一人ひとりに対する多様な学習機会の充実

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業（取組） 番号		名称	事業詳細 事務事業名（３０年度予算額）	事業概要	担当部署（局・課）
9	（２）	①未掲載	①未掲載	不登校状態の子どもに寄り添った次への一歩応援事業（5,000千円）	平成28・29年度に実施した「不登校等の困難を抱える子どもたちへのアウトリーチ事業（モデル事業）」の結果を踏まえ、不登校状態にある中学生を対象に、卒業後に孤立することがないよう一人ひとりに寄り添った伴走型支援を実施する。 【進捗状況】 平成２９年度は１０名の中学生を支援（モデル事業）。	子家・青少年課
10	（２）	②３０	家庭教育学級の充実	家庭・地域・学校パートナーシップ事業の一部（5,529千円）	家庭･地域・学校が一体となって地域の教育力、家庭の教育力向上に取り組む。 家庭・地域への支援 （１）家庭教育学級 家庭の教育力の向上を図るため、様々な課題を解決していくための知識や能力などを取得する場として、主に保護者を対象に、市立幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校を単位に開設。あわせて、直営保育所、私立幼稚園・保育所等でも開催する。 また、幼児の保護者を対象とした「家庭教育講座」を実施する。 ※平成30年度より見直しを実施。 （２）子育てネットワークの充実 ⇒施策３（１）８６掲載	市文・生涯学習課
11	（２） （３）	②３０ ①３９	家庭教育学級の充実 人権市民講座	地域研修（13,669千円）	市民が人権問題について正しい認識と理解を深めることができるよう、市民センター等で人権学習を行う。 １人権市民講座（各市民センター） ２家庭教育学級（小・中・特別支援学校） ３PTA自主講座（小・中PTA、区PTA連合会等）	教育・企画調整課（人権教育・事業調整ライン）

平成30年度社会教育関係主要事業について

施策　２　市民一人ひとりに対する多様な学習機会の充実

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業（取組） 番号		名称	事務事業名（３０年度予算額）	事業詳細 事業概要	担当部署（局・課）
12	（２）	②３１	北九州市子どもを育てる10か条の普及促進	家庭・地域・学校パートナーシップ事業の一部（773千円）	家庭･地域・学校が一体となって地域の教育力、家庭の教育力向上に取り組む。 家庭・地域への啓発 （１）「北九州市子どもを育てる10か条」の普及促進 平成15年度に制定された　「北九州市子どもを育てる10か条」について、様々な媒体や出前講演を通して、十分な浸透を図ることで、家庭と地域の教育力の向上を目指す。 【進捗状況】 ・チラシ、カード等による啓発 ・フェイスブックや区役所ロビー広告を活用した広報 ・出前講演の実施（7箇所） （平成30年度継続予定） （２）未就学児の基本的生活習慣の確立 （３）家庭教育講演会 ⇒施策５（１）１３０掲載	教育・指導第二課
13	（２）	④３７	生涯学習市民講座の充実	生涯学習活動促進事業の一部（17,125千円）	子どもから大人まで多様な要素を持つ地域の方全てが、市民センターを活用して、地域における生涯学習活動を推進する。 全市民センターにおいて時事問題や地域課題の解決をめざす講座や、社会貢献活動につながる講座、生きがいづくりをめざす講座など幅広い内容の講座を開設。	市文・生涯学習課
14	（３）	①４０	企業研修	企業研修（2,848千円）	企業の事業主、研修担当者等が人権問題について正しい認識と理解を深めるため、研修や啓発を行う。 １　公正採用選考人権啓発推進員研修 労働基準監督署、公共職業安定所、区役所との共催 ２　人権を考える企業のつどい（年1回開催） 労働基準監督署・公共職業安定所、北九州市内企業内同和問題研修推進協議会、北九州市人権問題啓発推進協議会 他との共催	教育・企画調整課（人権教育・事業調整ライン）
15	（３）	①４１	人権学習講座	人権学習講座（770千円）	「人権文化のまちづくり」を進めるため、日常生活の中に人権を尊重する心が根付くことを目的として、市民に対しては多様な学習ニーズに応え、指導者にとっては人権講座を実施する際のヒントとなるような講座・講演会を実施する。	教育・企画調整課（人権教育・事業調整ライン）

平成30年度社会教育関係主要事業について

施策　２　市民一人ひとりに対する多様な学習機会の充実

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業(取組) 番号		名称	事業詳細 事務事業名（３０年度予算額）	事業概要	担当部署（局・課）
16	（３）	①未掲載	未掲載	啓発指導者育成、啓発資料の作成・提供（1,581千円）	人権教育の講師・助言者の養成と資質の向上を目的に、市民センター館長、社会教育主事等に対して研修を行うほか、人権問題に対する市民の関心を高め、学習活動の充実を図るための資料等を提供する。 １　４月 新任市民センター館長研修 ２　５月 市民センター館長等研修	教育・企画調整課（人権教育・事業調整ライン）
17	（４）	66	地域スポーツ振興事業	生涯スポーツ振興事業（19,612千円）	生涯スポーツの普及・振興のため、各区においてスポーツ教室、ニュースポーツ体験会などを開催するほか、校区単位で開催するスポーツ行事に対する補助を行なう。	市文・スポーツ振興課
18	（４）	68	総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業	総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業（3,459千円）	地域住民の自主的な運営により、身近な地域で様々なスポーツに親しむことのできる総合型地域スポーツクラブの育成・支援に取り組む。 ＜事業内容＞ ・総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の運営 ・総合型地域スポーツクラブ間の交流促進 ・スポーツ指導者・クラブマネージャーの養成 ・国・福岡県・関係団体等とクラブ間の連絡調整 ・クラブ活動の広報	市文・スポーツ振興課
19	（４）	69	北九州マラソン開催事業	北九州マラソン開催事業（89,663千円）	スポーツの振興やまちのにぎわいづくりなどを図るとともに、本市の魅力を全国に発信するため、「北九州マラソン」を開催する。	市文・スポーツ振興課

平成30年度社会教育関係主要事業について

施策　２　市民一人ひとりに対する多様な学習機会の充実

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業(取組) 番号		名称	事業詳細 事務事業名（３０年度予算額）	事業概要	担当部署（局・課）
20	（４）	70	学校施設開放事業	学校施設開放事業 （43,378千円）	地域スポーツの普及や児童の安全な遊び場確保のため、学校教育に支障のない範囲で、小学校、中学校の施設を開放する。 【進捗状況】 １　スポーツ開放 体育館　１８４校 運動場　　７校 武道場　　１７校 ２　遊び場開放　１２９校	教育・指導第二課
21	（４）	未掲載	未掲載	夢・スポーツ振興事業 （8,000千円）	2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据え、国際・全国大会で活躍する選手を育成するため、ジュニア世代がトップアスリートや指導者から直接指導を受ける講習会等を実施する。 <事業内容> ・平成30年度は10種目実施予定。 ・平成30年度からは、平成29年度までのバドミントンに加え、アーチェリーとレスリングに関しても通年的に実施予定。 （通年型　H29：1種目⇒H30:3種目）	市文・スポーツ振興課
22	（４）	未掲載	未掲載	ホームタウン推進事業 （63,450千円）	本市をホームタウン・準ホームタウンとする「ギラヴァンツ北九州」、「堺ブレイザーズ」、「福岡ソフトバンクホークス」等の市民観戦事業等を行い、市民がスポーツに親しむきっかけづくりを行う。 <事業内容> ・ギラヴァンツ北九州ホームゲームへの市内親子を招待 ・ドリームスポーツ体験教室 ⇒7/27（金）実施予定 ・ギラヴァンツ北九州を支援する市民会議 ⇒ギラヴァンツ北九州激励会実施 ・スポーツ観戦による青少年の健全育成事業 ⇒福岡ｿﾌﾄﾊﾞﾝｸﾎｰｸｽ・堺ﾌﾞﾚｲｻﾞｰｽﾞ・ﾗｲｼﾞﾝｸﾞｾﾞﾌｧｰﾌｸｵｶ公式戦、北九州ｵｰﾌﾟﾝｺﾞﾙﾌﾄｰﾅﾒﾝﾄに市内親子を招待	市文・スポーツ振興課
23	（４）	未掲載	未掲載	レディースサッカー大会開催事業 （700千円） ※平成29年度まではドリームスポーツタウン推進事業	市民に夢や感動を与える"トップアスリート"を育成し、本市におけるサッカー競技者の底辺のレベルアップを図るとともに青少年の健全育成並びに本市のスポーツ振興に資することを目的にレディースサッカー大会を開催する。 <事業内容> レディースサッカー大会（12月上旬頃に実施予定）	市文・スポーツ振興課

平成30年度社会教育関係主要事業について

施策　２　市民一人ひとりに対する多様な学習機会の充実

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業(取組) 番号		名称	事業詳細 事務事業名（３０年度予算額）	事業概要	担当部署（局・課）
24	（４）	未掲載	未掲載	大規模国際大会誘致関係事業（68,000千円）	生涯スポーツの振興やまちのにぎわいづくり、並びに誘致前後のスポーツ交流や文化交流等へとつなげることを目的に、大規模国際大会等の試合会場やキャンプ地誘致に向けて、戦略的な誘致プロモーションの展開や、官民一体となった「誘致委員会」による積極的な活動及び備品の整備を行うもの。 また、「HSBC女子セブンズシリーズ2017-2018」「卓球ジャパンオープン荻村杯北九州大会」などの大規模国際大会等の本市開催を支援するもの。 【進捗状況】 ◆2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のキャンプ地誘致状況 ・環境分野や上下水道分野、フィルムコミッッション等での交流が既にある東南アジア諸国（タイ、インドネシア等）やフィンランド等を対象に誘致活動を展開中。 ◆ラグビーワールドカップ2019日本大会のキャンプ地誘致状況 ・英国を対象に誘致活動を展開し、平成２８年１１月、ウェールズ代表の事前キャンプ地に決定。 ・平成３０年４月ウェールズ代表の公認キャンプ地に内定。 ◆ホストタウンについて ・内閣府が推進する｢ホストタウン｣について、本市はタイを相手国として第一次登録団体に決定。	市文・国際スポーツ大会推進室

平成30年度社会教育関係主要事業について

施策　２　市民一人ひとりに対する多様な学習機会の充実

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業（取組） 番号		名称	事業詳細 事務事業名（３０年度予算額）	事業概要	担当部署（局・課）
25	（５）	７１ ７２	伝統文化の発掘・継承 文化財の保存・継承	文化財保存・活用 （18,072千円）	◆小学校考古出前教室 文化財や地域の歴史への関心を高め、郷土愛を育むため出土遺物を活用して小学校考古出前教室を実施。 ・対象：小学校６年生 ・申込み：文化企画課にて随時受付 （平成３０年度実施　１２校） ◆文化財保存修理事業 所有者が行う指定文化財の保存修理事業に対して、文化財保護法、文化財保護条例等に基づき、文化財の保存を図るため補助金を交付するもの。 ◆発掘速報展等の開催 発掘調査によって得られた成果を埋蔵文化財センターで「発掘速報展」として開催。 ◆埋蔵文化財センター速報展（年３回開催） ①北九州市を掘る（８９） 『「城下町小倉」から「軍都小倉」へ』 （４月２４日～８月１９日） ②北九州市を掘る（９０） 『（仮）祇園町遺跡の調査成果から』（8月28日～11月18日） ③北九州市を掘る（９１） 『（仮）小倉城天守台石垣調査の成果から』（11月20日～4月21日） ◆こども考古学講座 ４月、６月、８月、１０月、１１月、平成３１年１月、３月（年７回） 各月第４日曜日開催　定員３０人 ◆市民考古学講座 平成３０年５月～平成３１年３月の隔月第４木曜 （全６回）開催 定員３０人 ◆体験教室 遺跡発掘体験（時期・場所未定） ◆現地説明会（時期・場所未定） ◆遺跡発掘報告会 平成３０年３月初旬予定 北九州市立生涯学習総合センター ◆文化財公開施設にかかるイベント 広く市民に文化財に親しんでいただくため、無料公開している指定文化財で自主的なイベントを開催している。 ・森鷗外旧居 森鷗外をしのぶ会（６月１９日、３月２６日） ・火野葦平旧居「河伯洞」 あじさい祭り関連展示（６月） ・立場茶屋銀杏屋 観月会（９月） 銀杏屋まつり（１１月３日） ひな祭り（２月～３月） ・旧高崎家住宅 木屋瀬宿場まつり（１１月初旬） ひな祭り（２月～３月） ・東田第一高炉跡 年末年始を除く、毎日公開	市文・文化企画課

平成30年度社会教育関係主要事業について

施策　２　市民一人ひとりに対する多様な学習機会の充実

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業(取組) 番号		北九州市生涯学習推進計画 事業(取組) 名称	事業詳細 事務事業名（３０年度予算額）	事業詳細 事業概要	担当部署（局・課）
26	（５）	72	文化財の保存・継承	門司港駅保存修理補助事業（114,113千円）	国の重要文化財「門司港駅」が老朽化し、保存・活用に支障をきたすため、文化財保護法等の法令に基づいて所有者が事業主体となり修理する費用の一部を補助する。	市文・文化企画課
27	（４）	未掲載	未掲載	市民文化表彰（1,449千円）	本市在住、出身で文化芸術活動の業績が顕著な団体、個人に市民文化賞、奨励賞を授与する。 【進捗状況】 平成２９年度まで、 市民文化賞１１１人・１１団体、 奨励賞　４７人・５団体が受賞。 募集期間：７月１日～８月３１日	市文・文化企画課

平成30年度社会教育関係主要事業について

施策　３　地域活動をリードする人材の育成・学びの成果の活用

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業(取組) 番号		名称	事業詳細 事務事業名（３０年度予算額）	事業概要	担当部署（局・課）
1	（1）	73	地域づくりマネジメント研修	地域づくりマネジメント研修（242千円）	地域活動をリードする市民センター館長以外の人材（市民センター職員、まちづくり協議会会長・役員、生涯学習推進コーディネーター等）に対し、求められる資質や能力を向上させる研修を行い、地域づくりをマネジメントする人材を育成する。 地域において、地域課題を主体的に考える人材を増やすことで、生涯学習活動の推進、地域活動の活性化に向けた、地域全体の意識付けを目指す。	市文・生涯学習課
2	（1）	86	子育てネットワークの充実	家庭・地域・学校パートナーシップ事業の一部（5,529千円）	家庭･地域・学校が一体となって地域の教育力、家庭の教育力向上に取り組む。 １　家庭・地域への支援 （1）家庭教育学級 ⇒施策２（２）②３０掲載 （2）子育てネットワークの充実 子どもを持つ保護者を支援し、家庭と地域の教育力の一層の活性化を図るため、地域で活動する子育てサポーターを養成し、子育てネットワークの構築を図る。 ・子育てサポーターの養成及びフォローアップ研修（各区） ・子育てサポーターリーダーの養成・フォローアップ研修（全市） ・子育てサポーター交流事業（全市）	市文・生涯学習課
3	（1）	87	生涯学習指導者育成セミナー	生涯学習活動促進事業の一部（17,125千円）	市民の力を活用したまちづくり、生涯学習を推進するために必要な高度かつ専門的な知識・技術の習得に向けた研修を行い、人材の育成を行う。 前期コース：9月8日～11月10日 後期コース：11月17日～2月9日	市文・生涯学習課

平成30年度社会教育関係主要事業について

施策　３　地域活動をリードする人材の育成・学びの成果の活用

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業(取組) 番号		名称	事業詳細 事務事業名（３０年度予算額）	事業概要	担当部署（局・課）
4	（1） （4）	89 109	北九州市民カレッジ事業 市民カレッジ受講生によるグループ	生涯学習総合センター事業の一部 （4,887千円）	市民の多様な学習ニーズに対応した生涯学習機会を提供し、自己実現の促進および「循環型生涯学習社会」を担う人材の育成を図る。 １　前期　平成30年5月～9月 全３コース　１４講座 まちづくり・人材育成系コース　６講座 総合・教養系コース　１講座 高等教育機関提携コース　７講座 ２　後期　平成30年10月～平成31年3月 全３コース　１４講座（予定）	市文・生涯学習総合センター
5	（1） （4）	８９ １０９	北九州市民カレッジ事業 市民カレッジ受講生によるグループ	八幡西生涯学習総合センター事業の一部 （2,079千円）	市民の多様な学習ニーズに対応した生涯学習機会を提供し、自己実現の促進および「循環型生涯学習社会」を担う人材の育成を図る。 １　前期　平成30年5月～9月 全３コース１９講座） まちづくり・人材育成系コース　４講座 総合・教養系コース　１講座 高等教育機関提携コース　１４講座 ２　後期　平成30年10月～平成31年3月 全３コース１９講座（予定）	市文・八幡西生涯学習総合センター
6	（1）	90	生涯学習ボランティア養成講座	生涯学習総合センター事業の一部 (4,887千円)	生涯学習活動を支援するボランティアの養成及びスキルアップを行うとともに、ボランティア同士の情報交換と交流を図るための研修を行う。 平成３０年１１月に実施予定	市文・生涯学習総合センター

平成30年度社会教育関係主要事業について

施策　３　地域活動をリードする人材の育成・学びの成果の活用

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業(取組) 番号		名称	事業詳細 事務事業名（３０年度予算額）	事業概要	担当部署（局・課）
7	（1）	90	生涯学習ボランティア養成講座	八幡西生涯学習総合センター事業の一部（2,079千円）	生涯学習活動を支援するボランティアの養成及びスキルアップを行うとともに、ボランティア同士の情報交換と交流を図るための研修等を行う。 ボランティア養成講座 （ボランティア入門講座） 平成30年9月　実施予定	市文・八幡西生涯学習総合センター
8	（1）	91	北九州市女性リーダー国内研修	生涯学習総合センター事業の一部（4,887千円）	市内で活動している女性や学習グループのリーダー、今後リーダーとして活動しようとする意欲のある人を先進他都市等に派遣し、生涯学習活動に必要な専門的知識や技術についての学習を深め、地域活動の中心となる人材の育成及びスキルアップを図る。 日　程：平成30年11月上旬（予定） 研修先：先進他都市視察　等	市文・生涯学習総合センター
9	（1）	未掲載	未掲載	地域課題解決のための人材活用支援事業の一部（1,000千円）	地域が主体的に地域課題を解決することができるよう、地域人材の発掘～育成～活用までを体系的に支援し、地域力アップにつなげる仕組みをつくる。 ＜地域活動をリードする人材育成事業＞ 地域の学習拠点の長として、市民センター館長への研修を充実させることで、生涯学習を通じた地域課題への取組みや地域活動の活性化、市民の学習支援に役立てる。 市民センター館長等研修日程 新任館長研修　平成30年4月24日 全館長等研修 [前期]平成30年5月11日(1日目) 平成30年5月30日(2日目) 平成30年6月21日or28日(3日目) [後期]平成30年12月11日	市文・生涯学習課

平成30年度社会教育関係主要事業について

施策　３　地域活動をリードする人材の育成・学びの成果の活用

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業(取組) 番号		名称	事業詳細 事務事業名（３０年度予算額）	事業概要	担当部署（局・課）
10	（３）	102	青少年ボランティアステーション推進事業	青少年ボランティアステーション推進事業（1,804千円）	社会の構成員としての「規範意識」や「命」を大切にし、「他者を思いやる心」等、豊かな人間性を育むため、青少年ボランティアステーションを拠点に、青少年が行うボランティア活動を支援、促進する。併せて、ひきこもりや非行等の課題や困難を抱える青少年に対するボランティア活動を通じた自立・立ち直り支援に取り組む。また、ボランティア活動の意義についての広報・普及活動として、「出前授業」を実施する。 【進捗状況】 平成２９年度のボランティア体験活動者数（延べ）は、５，７３４人となっている。	子家・青少年課
11	（４）	106	市民センタークラブ	生涯学習活動促進事業の一部（17,125千円）	講座等の終了後、さらに継続的な学習を希望する人々でつくられた組織や自主的なサークル活動からスタートした組織などが、クラブとして市民センターで活動する。	市文・生涯学習課
12	（４）	107	文化祭の充実	生涯学習活動促進事業の一部（17,125千円）	日常の学習活動の成果を発表し、学習意欲を高めるとともに、地域の連帯感を醸成することを目的に、各市民センターで文化祭やセンター祭りを開催する。	市文・生涯学習課
13	（４）	108	北九州エンジョイント事業	生涯学習総合センター事業の一部（4,887千円）	学んだ成果を行動に活かす人をさらに支援できるよう、「北九州市民アカデミー事業」を発展的に見直し、平成30年度から、各区の運営委員会が主体となって地域に必要な学習ニーズを取り入れた講座の企画運営を行う「北九州エンジョイント事業」を全区で実施する。	市文・生涯学習総合センター

平成30年度社会教育関係主要事業について

施策　３　地域活動をリードする人材の育成・学びの成果の活用

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業(取組) 番号		北九州市生涯学習推進計画 事業(取組) 名称	事業詳細 事務事業名（３０年度予算額）	事業詳細 事業概要	担当部署（局・課）
14	（４）	110	「学びの環」推進フォーラムの開催	「学びの環」推進フォーラムの開催 （450千円）	市民一人ひとりが学びの成果を活かし、地域や団体の活動、新たな学習につなげることを目的として、「学びの環」推進フォーラムを開催する。 今回は、北九州市文化大使であり、本市と同じく今年度で55歳になるリリー・フランキーさんに、生まれ故郷である本市への想いや人とのふれあい、東京から見たこの街への想いなどについてお話をいただく講演会を実施する。また、広く市民にPRすることで生涯学習総合センターへの新たな来場者を開拓し、さらなる学びの環を広げていきたい。 日程：平成30年11月23日（金・祝） 会場：生涯学習総合センター	市文・生涯学習総合センター
15	（４）	未掲載	未掲載	地域課題解決のための人材活用支援事業の一部 （1,000千円）	地域が主体的に地域課題を解決することができるよう、地域人材の発掘～育成～活用までを体系的に支援し、地域力アップにつなげる仕組みをつくる。 ＜学んだ成果を地域に活かす講座の開催＞ 学習者等と市民センターでの地域活動をマッチングさせる事業を実施し、地域人材の発掘や学びと実践が結びつく体制づくりを支援する。	市文・生涯学習課

平成30年度社会教育関係主要事業について

施策 4　学習を支える体制づくりと環境整備

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業(取組) 番号		名称	事業詳細 事務事業名（３０年度予算額）	事業詳細 事業概要	担当部署（局・課）
1	（1）	113 116	社会教育・生涯学習関係職員研修の充実 社会教育主事・社会教育主事補の配置	生涯学習総合センター事業の一部 （4,887千円）	市民センター職員等を対象に、事例発表を通じて市民センターにおける課題について考えるとともに、職員の資質向上を図る。 日程：平成31年1月下旬（予定） 会場：生涯学習総合センター 社会教育の事業や生涯学習事業を行う方々の求めに応じて、各区コミュニティ支援課に配置している社会教育主事・社会教育主事補により、専門的な助言や指導を行う。	市文・生涯学習総合センター
2	（1）	114	生涯学習推進コーディネーター配置事業	生涯学習推進コーディネーター配置事業 （8,890千円）	市民の生涯学習の推進ならびに市民センターの活性化を図るため、学習機会や人材等地域に関する様々な情報の収集と提供などを行うコーディネーターを、市民センターに配置する。	市文・生涯学習課
3	（2）	122	北九州ひとみらいプレイスの充実	北九州ひとみらいプレイス事業 （4,549千円）	北九州市基本構想・基本計画「元気発進！北九州」プランが第一の基本方針とする「人づくり」の実現を目指す拠点施設として、子どもから高齢者まで、年齢、国籍、文化を問わず、まちの最大の財産である人に着目して幅広い人づくりを支援し、本市の人づくり支援機能の新たな展開を目指す。 【事業内容】 1　ひとづくり支援事業 ⑴　グローバル人材育成事業 「北九州の未来をつくる人材」の育成を目指して、幅広い世代を対象に、外国の文化や習慣などに触れ多様な価値観を育む事業を進める。 （11月～随時実施予定） ⑵　地域総合リーダー育成講座事業 地域の総合的なまとめ役、地域と産･学･民のつなぎ役の人材を育成するための講座を開催する。 （北九州市民カレッジ等と連携して実施） 2　連携事業「気ままにセミナー」 主に現役世代を対象に、気楽に働きながら受講できるセミナーを開催する。 （年間18講座程度実施予定） 3　にぎわい創出事業「ひとみらい交流ウィーク」 「北九州ひとみらいプレイス」の利用者や団体が、日頃の活動や成果を発表する文化祭や記念行事など、コムシティ、黒崎ひびしんホール及び黒崎商店街エリアにおいて、地域の事業者等と協働し、黒崎地域のにぎわい創出を図る。 期間：11月7日～11月13日	市文・八幡西生涯学習総合センター

平成30年度社会教育関係主要事業について

施策 4　学習を支える体制づくりと環境整備

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業(取組) 番号		北九州市生涯学習推進計画 事業(取組) 名称	事業詳細 事務事業名（３０年度予算額）	事業詳細 事業概要	担当部署（局・課）
4	（2）	124	美術館の整備・充実	美術館企画展（139,517千円）	国内外の著名な芸術作品等を展示する企画展として、下記の日程で展覧会を開催。 【本館】５展覧会 ◆森山安英　解体と再生展 5月19日～7月1日 ◆写真展　岩合光昭の世界ネコ歩き展 7月14日～8月26日 ◆没後80年　青柳喜兵衛とその時代展 9月15日～11月11日 ◆第74回　県展 11月20日～11月25日 ◆ジョルジュ・ルオー 聖なる芸術とモデルニテ展 12月16日～2月17日 【分館】４展覧会 ◆再興第１０２回院展 4月6日～5月6日 ◆ブルーノ・ムナーリ展 6月23日～8月26日 ◆石川直樹　この星の光の地図を写す展 9月8日～11月4日 ◆1968年－激動の時代の芸術展 12月1日～1月27日	市文・美術館普及課
5	（2）	124	美術館の整備・充実	コレクション展（4,606千円）	北九州市立美術館の所蔵作品を展示するコレクション展として、展覧会を開催。 ◆コレクション展Ⅰ 特集　色と形にみる音のはじまり 4月14日～7月29日 ◆コレクション展Ⅱ 特集　アメリカで活躍したアーティストたち1960’S－80’S 8月11日～12月16日 ◆コレクション展Ⅲ 特集　浮世絵－色彩の変遷 2月9日～3月17日	市文・美術館普及課
6	（2）	125	自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）の整備・充実	博物館企画展・特別展開催事業（17,922千円） いのちのたび博物館大規模特別展開催事業（32,000千円）	平成30年度は特別展を4回開催する。 【事業内訳】 （1）春の特別展「Bones～骨、ほね、ホネ～」 平成30年3月17日(土)～5月13日(日)58日間 （2）夏の特別展「へんてこモンスター～海から始まったその軌跡～」 平成30年7月14日（土）～9月24日（月・祝）73日間 （3）秋の特別展「（仮）食のふしぎ－楽しく学ぶ箸と和食の文化史－」 平成30年10月20日（土）～12月9日（日）51日間 （4）春の特別展「(仮)獣は毛もの」 平成31年3月16日(土)～5月12日(日)58日間	市文・自然史・歴史博物館普及課

平成30年度社会教育関係主要事業について

施策　４　学習を支える体制づくりと環境整備

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業(取組) 番号		名称	事業詳細 事務事業名（３０年度予算額）	事業概要	担当部署（局・課）
7	（２）	125	自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）の整備・充実	ジオパーク活動推進事業（1,552千円）	本市の貴重な地質遺産の市民への周知を深め、地元主体のジオパーク活動の展開を推進するため、より魅力的なジオツアー等の開発・実施やジオサイトを紹介するパンフレット等の普及啓発ツールの作成を実施する。 （予定事業） ・室内講座の開催（1回予定） ・野外観察会（8回予定） ・代表的なジオサイトの紹介パンフレットの作成 ・ジオパークホームページの運営 ・ジオパークネットワークへの参加による情報収集 【進捗状況】 本市におけるジオパーク活動の取り組みを広く周知すべくホームページの運営を継続した。また、以下の普及活動を実施し、204名の参加があったほか、日本ジオパークネットワークの総会、全国大会等に出席して情報収集を行った。 ・室内講座（1回開催） ・野外観察会（ジオツアー及びジオハイク）（8回開催） （平成30年度予定） ひきつづき本市におけるジオパーク活動の取り組みを市民に周知するため、ジオサイト解説リーフレット等普及啓発ツールのさらなる充実につとめ、ジオツアー等の普及活動の実施に重点を置いた活動を実施する。また、日本ジオパークネットワーク加盟地域とのネットワーク構築に務める。	市文・自然史・歴史博物館普及課
8	（２）	126	松本清張記念館の整備・充実	松本清張記念館普及事業（7,437千円） 松本清張記念館開館20周年記念事業（14,000千円）	記念館学芸員担当職員が行う調査・研究の発表の場としての企画展。年２回開催。 ・開館２０周年記念プレ事業「開館２０年の軌跡展～終わりなき探求～」（平成30年2月1日～5月20日）を開催。 ◇特別企画展 ・「清張オマージュ展（仮）」（平成30年7月21日～10月31日） ・「砂の器展（仮）」（平成30年12月18日～31年3月31日）を開催予定。 松本清張記念館開館20周年を記念して多彩な事業を実施することにより、市民をはじめより多くの方に清張の人と作品に触れる機会の充実を図り、魅力ある事業や「文学の街・北九州」を市内外に発信する。 〈事業内容〉 ◇開館２０周年記念講演会（8月4日） 作家・横山秀夫氏による講演会 ◇トークショー（6月21日） ＴＶプロデューサーと脚本家が語る清張ドラマの世界 ◇「砂の器」シネマコンサート(11月25日) 映画「砂の器」の上映にあわせて、テーマ曲「宿命」をオーケストラが生演奏等	市文・松本清張記念館

平成30年度社会教育関係主要事業について

施策 4　学習を支える体制づくりと環境整備

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業(取組) 番号		北九州市生涯学習推進計画 事業(取組) 名称	事業詳細 事務事業名（３０年度予算額）	事業詳細 事業概要	担当部署（局・課）
9	（2）	127	文学館の整備・充実	普及研究事業（19,455千円）	・特別企画展（２回 夏・秋） 資料展示及び企画展関連イベント実施 ・「あなたにあいたくて生まれてきた詩コンクール」 その他	市文・文学館
10	（2）	127	文学館の整備・充実	子どもノンフィクション文学賞事業（10,942千円）	子どもたちが人間や社会への関心をもつ契機となり、思考能力や人間としての成長を促すため、小中学生を対象としたノンフィクション文学賞を実施し、広く国内外から作品を募るもの。	市文・文学館
11	（2）	127	文学館の整備・充実	林芙美子文学賞事業（12,277千円）	北九州出身であり、「放浪記」、「浮雲」などの作品で知られ、特に短編の名手として評価の高い林芙美子の名を冠する文学賞を実施する。 多くの文学者、作家を輩出した北九州市の豊かな文化的土壌を全国に発信するとともに、北九州市文化振興計画の重要な柱である「人材育成」に寄与することを目的とする。	市文・文学館
12	（2）	127	文学館の整備・充実	北九州市立文学館展示リニューアル事業（9,400千円）	２０１７（平成２９年）年度に開催した「北九州市立文学館展示リニューアル懇話会」や市政モニターアンケートなどの意見等も踏まえて策定した「北九州市立文学館展示リニューアル基本計画」に基づき、２０２０年度のリニューアルに向け、基本・実施設計を行う。	市文・文学館

平成30年度社会教育関係主要事業について

施策　４　学習を支える体制づくりと環境整備

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業(取組) 番号		名称	事業詳細 事務事業名（３０年度予算額）	事業詳細 事業概要	担当部署（局・課）
13	（２）	127	文学館の整備・充実	文学館文庫発行事業 （2,000千円）	絶版等で入手困難な北九州ゆかりの作家の文庫本を発行し、「文学の街　北九州」の全国への発信と、北九州の文芸文化の振興を図る。 １．発行予定冊数　２冊 ２．サイズ　Ｂ６判 ３．頁数　２００頁～３００頁 ４．発行予定部数　１，０００部	市文・文学館
14	（２）	未掲載	未掲載	桃園市民プール（室内）整備事業 （511,000千円）	開設後、５０年以上経過し、老朽化が著しく、更新時期を迎えた市内唯一の室内公認５０ｍプールである桃園市民プールについて、２０２０年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のキャンプ地誘致に向けた、新築工事及び既存建物の解体撤去を行う。 ＜事業内容＞ ・平成２９年度に施設･諸室･設備等の設置など建築形態について、仕様書･図面等の詳細を実施設計として策定。 ・実施設計を踏まえ、新築工事等を行う予定。	市文・スポーツ振興課

平成30年度社会教育関係主要事業について

施策 ５　学校教育、家庭教育への支援や学校、家庭、地域の連携強化

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業(取組) 番号		名称	事業詳細 事務事業名（３０年度予算額）	事業概要	担当部署（局・課）
1	（１）	130	家庭・地域への啓発事業	家庭・地域・学校パートナーシップ事業の一部（773千円）	家庭･地域・学校が一体となって地域の教育力、家庭の教育力向上に取り組む。 家庭・地域への啓発 （１）「北九州市子どもを育てる10か条」の普及促進⇒施策２（２）②３１掲載 （２）未就学児の基本的生活習慣の確立 未就学児の保護者に、子どもたちに身につけてもらいたい基本的生活習慣などの情報提供を行うことで、家庭教育に対する意識の向上を図る。 ・家庭教育リーフレット「きほんのき」を3歳児の保護者に、保育所や幼稚園などを通じて配布 ・幼稚園、保育所における子どもを育てる10か条出前講演の際にリーフレットを配布 ・小学校入学前説明会において、「きほんのき」を保護者に配布するとともに、校長講話で基本的生活習慣の重要性を啓発 【進捗状況】 ・家庭教育リーフレット「きほんのき」を３歳児の保護者に、保育所や幼稚園などを通して配布 ・幼稚園、保育所における子どもを育てる１０か条出前講演の際にもリーフレットを配布 ・小学校入学前説明会において、家庭教育の重要性についての校長講話を行い、リーフレットを配布 (平成30年度継続予定) （３）家庭教育講演会 家庭の教育力の向上を図るため、主に、中学生の保護者を対象としたテーマで全市的な講演会、「家庭教育講演会」を実施する。 【進捗状況】 ・小・中・特別支援学校生の保護者を対象に全市的な講演会（家庭教育講演会）を実施[30年8月19日予定]	教育・指導第二課

平成30年度社会教育関係主要事業について

施策 ５　学校教育、家庭教育への支援や学校、家庭、地域の連携強化

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業(取組) 番号		名称	事業詳細 事務事業名（３０年度予算額）	事業概要	担当部署（局・課）
2	（１）	131	はじめての絵本事業	はじめての絵本事業 16,544千円	○はじめての絵本事業 妊娠時の早い時期から子どもの読書に関心を持ってもらい、おなかの赤ちゃんに絵本を読んであげることにより、親子でゆったりとしたひと時を過ごしてもえるよう、平成２８年１０月より、母子健康手帳の交付時に「絵本ﾊﾟｯｸ」を無料で配布する。 １　対象者　母子健康手帳の交付を受ける方 ◆配布状況 28年度　(10月～3月)　99.2% 29年度　　99.5% ○ブックスタート事業 はじめての絵本事業に移行したが、移行以前に母子健康手帳の交付を受けた方に対して案内はがきと引換に「絵本ﾊﾟｯｸ」を引き続き無料で配布する。 １　対象者 平成15年4月1日以降、平成28年9月30日までに母子健康手帳の交付を受けた出生児及び保護者 ◆配布状況 60.9%(事業開始からH29年度まで) ※　絵本パック内容 絵本２冊、絵本リスト、図書館カード申込書など	教育・中央図書館
3	（２）	136	スクールヘルパーの配置	学校支援地域本部・スクールヘルパー事業の一部 （61,690千円）	本事業は平成１３年６月、大阪教育大学附属池田小学校で起きた無差別殺傷事件を受け、同年１１月から小学校における児童の安全確保のための活動として制度が発足。その後、地域の方々の経験を生かした授業支援を行う「教育活動支援」、障害のある児童生徒の学校生活を支援する「特別支援教育支援」、学校図書館の運営支援を行う「ブックヘルパー」等が加わった。 保護者や地域の諸団体の協力を得て様々な知識や経験を生かしながら、学校教育の場においてボランティアとして活動し、子供の安全対策、悩み相談及び授業の手伝いなど、市立幼稚園及び小・中・特別支援・高等学校の様々な教育活動を支援し、「開かれた学校づくり」を推進するもの。 平成30年度から、学校支援地域本部の学校支援ボランティアと統合する。 【進捗状況】 １　安全対策・相談支援 校内巡視及び通学路の安全確保、休み時間等の子供の相談対応　等 ２　教育活動支援 自らの経験や特技、知識などを生かした授業の支援　等 ３　特別支援教育支援（平成20年度から実施） 障害のある児童生徒への学校生活の軽微な支援　等 ４　ブックヘルパー（平成22年度から実施） 学校図書館の貸出・返却業務、環境整備、読み聞かせ等の読書活動の支援 平成２９年度のスクールヘルパー等登録者数、延べ活動人数は集計中	教育・指導第二課

平成30年度社会教育関係主要事業について

施策 ５　学校教育、家庭教育への支援や学校、家庭、地域の連携強化

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業(取組) 番号		名称	事業詳細 事務事業名（３０年度予算額）	事業概要	担当部署（局・課）
4	（２）	137	学校支援地域本部事業	学校支援地域本部・スクールヘルパー事業（76,187千円）	教員が子どもと向き合う時間の拡充と地域の教育力の向上を図るため、中学校区単位に「学校支援地域本部」を設置し、配置された地域コーディネーターが、学校のニーズに応じた地域等の人材を学校に紹介し、学校の教育活動を支援する。 【進捗状況】 〇平成２９年度実施校：５７校 （小学校１７校、中学校４０校） 小学校・・・田野浦、藤松、門司中央、井堀、桜丘、三郎丸、中島、長行、吉田、高須、赤坂、池田、黒崎中央、萩原、本城、あやめが丘、中原 中学校・・・東郷、戸ノ上、松ヶ江、菊陵、霧丘、思永、篠崎、企救、志徳、城南、曽根、田原、沼、東谷、守恒、湯川、横代、石峯、向洋、洞北、二島、枝光台、大蔵、尾倉、高見、中央、槻田、花尾、浅川、永犬丸、沖田、香月、熊西、上津役、木屋瀬、則松、引野、八児、大谷、高生 （※下線は、２９年度新規実施校） 平成30年度は新規実施校５校、継続実施校５７校の合計６２校区で実施予定。	教育・指導第二課
5	（２）	138	経済界との連携による学校支援事業	経済界との連携による学校支援事業（5,500千円）	経済界と連携することで、企業がもつ人材や経営のノウハウ等を生かし、出前授業や児童向けの体験学習、教職員を対象とした研修への講師派遣などに有効活用する。 【進捗状況】 平成２９年度から、小学校全校を対象に実施	教育・指導第二課

平成30年度社会教育関係主要事業について

施策 ５　学校教育、家庭教育への支援や学校、家庭、地域の連携強化

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業(取組) 番号		名称	事業詳細 事務事業名（３０年度予算額）	事業概要	担当部署（局・課）
6	（２）	140	子ども司書養成講座	子ども司書養成講座等学校読書活動支援事業（2,153千円）	学校における読書活動の推進を支援するため、市立中央図書館において、次の事業を実施し、子どもの読書に対する興味と理解を深める。 １　「子ども司書」養成講座の開催 子どもたちが、司書の仕事や図書の並べ方に関する知識、読み聞かせの技能の習得などを通じて、図書館への関心や読書への意欲を高め、学校で読書の楽しさを広げる読書活動推進のリーダーとなることを図る。 〇平成 30年度予定 日程：7月～8月の5日間（予定） 対象：北九州市内の小学5･6年生、中学1･2年生 定員：70名 ２　小・中・特別支援学校児童生徒の読書感想文の募集 読書を通して得た喜びや感動を文章表現することで、ものの見方や考え方を深め、より豊かな感性を育むことを願い、読書感想文の募集を行い、優秀な作品を表彰する。 〇平成 30年度予定 日程：　6月下旬　学校あてに開催通知 9月中旬　応募締切 12月上旬　表彰式 ３　学校貸出図書セットの直接配送 学校における読書活動・調べ学習等の一層の推進を図るため、学年別・テーマ別に図書を選び、、約４０冊ごとのセットにして、セット単位で学校に貸し出すもの。 従来、借受校が受取を希望する図書館へ来館して貸出・返却を行っていたが、借受校の利便性の向上を図り、より一層、学校貸出図書セットの利用を促すため、従来の方法に加え、平成26年度から、中央図書館から学校宛てへの直接配送も行っている。 〇平成 30年度 75セット ４　「読み聞かせボランティアバンク」研修会開催等 ボランティアの活用推進や市民の読書推進のため、平成26年2月に「読み聞かせボランティアバンク」を設立し、情報提供やボランティアの需給調整を行っている。また、読み聞かせボランティアの人材育成や資質向上のため、研修会を行う。 〇平成 30年度予定 研修会開催･･･平成 31年2月（予定）	教育・中央図書館
7	（３）	141	遊びの広場促進事業	遊びの広場促進事業（685千円）	異年齢集団での活動や自然体験等の各種体験活動を促進し、子ども会をはじめとした青少年育成団体などの活動の活性化を図るため、市内の団体・グループが子どものために行う事業の中から、他の団体・グループ活動の参考になる事業に対し支援を行う。 【進捗状況】 平成２９年度は７団体に補助金を交付。	子家・青少年課

平成30年度社会教育関係主要事業について

施策 ５　学校教育、家庭教育への支援や学校、家庭、地域の連携強化

No.	北九州市生涯学習推進計画 事業(取組) 番号		名称	事業詳細 事務事業名（３０年度予算額）	事業概要	担当部署（局・課）
8	（３）	142	子ども会等地域活動推進事業	子ども会等地域活動推進事業（727千円）	子ども会活動をはじめとした、子どもたちの地域活動の活性化を図るため、その環境づくり、仕組みづくりを積極的に行う。地域の方々に対して、出前講演の実施、啓発パンフレットの配布などを通じ、子どもにとっても大人にとっても地域活動がとても大切であり、必要であることを訴える。 また、野外活動やレクリエーション等の指導者を「遊びの達人」として、サポートが必要な子ども会等へ派遣するなど、現場において指導者等の知識や技術の向上を図る取り組みも行う。 【進捗状況】 平成２９年度は、『いま、子どもに必要なもの～「遊び」のススメ！』をテーマに６回の出前講演を実施。子ども会や市民センターなどの事業に、「遊びの達人」を１２６回派遣。	子家・青少年課
9	（３）	143	家庭・地域・学校の連携推進	生涯学習活動促進事業の一部（17,125千円）	家庭・地域・学校の連携 ・地域の小学生が市民センターに1週間程度寝泊りしながら通学し、様々な生活体験や異年齢交流を体験する。 ・地域の特色を生かし、地域ぐるみで子どもを見守り育てる意識を高めることを目的に、家庭・地域・学校等が連携して、世代間交流やさまざまな体験活動の機会を提供する。また、特別支援学校に通う子ども達やその両親が地域とつながっていくきっかけづくりの機会を提供する。	市文・生涯学習課
10	（４）	120	図書館の整備・充実	子ども図書館整備事業（424,600千円）	中央図書館エリアの一部を利用して改修を行い、子ども図書館を整備するもの。 平成29年度は実施設計完了後、工事に着手するとともに、図書購入を進めた。 平成30年12月開館に向け、引き続き改修工事及び図書購入をを進める。 【進捗状況】 ＜今後のスケジュール予定＞ 平成30年12月 開館	【建設】 教育・子ども図書館準備室 【図書購入】 中央図書館庶務課

社会教育関係団体補助金一覧表

（単位：千円）

団体名	事業名	３０年度 補助金額
北九州市婦人会連絡協議会	・機関紙発行事業	750
	・地域婦人会指導者研修事業	
北九州市ＰＴＡ協議会	・機関紙発行事業	1,400
	・各種研修大会参加事業	
北九州市子ども会連合会	・北九州市子ども会連合会事業	2,500
日本ボーイスカウト福岡県連盟 北九州地区協議会	・日本ボーイスカウト北九州地区協議会事業	1,400
ガールスカウト福岡県北九州地区	・ガールスカウト福岡県北九州地区事業	405
門司海洋少年団	・海洋少年団事業	100
洞海海洋少年団	・海洋少年団事業	100
北九州地区（市）少年補導員 連絡協議会	・北九州地区（市）少年補導員連絡協議会事業	1,000
校区青少年育成会	・校区青少年育成会事業	409
子ども会をはじめとした 青少年育成団体	遊びの広場促進事業補助金 　異年齢集団での活動や自然体験等の各種活動を支援するため、補助金を交付 　※５月に交付団体を公募予定	600
（公財）北九州市体育協会	・各競技団体の指導育成	14,130
	・スポーツ大会の開催及び助成	
	・スポーツ指導者の養成	
	・スポーツの普及、競技力の向上	
	・スポーツ少年団の指導育成	
北九州市レクリエーション協会	・レクリエーション活動の普及、大会の開催	1,330
	・レクリエーション指導者の養成	
	・レクリエーションに関する調査研究	
	・レクリエーション団体の指導育成	
北九州市スポーツ推進委員協議会	・各種スポーツ・レクリエーション行事の企画・立案	300
	・ニュースポーツの普及・振興	

資料２

平成 29 年度　家庭教育学級に関するアンケート結果

概要

昭和 39 年度に開設された家庭教育学級（以下「家教」という）は、保護者が家庭教育上の問題を継続的に、集団で学習する場として重要な役割を果たしてきた。しかしながら、核家族世帯または共働き世帯の増加等、子どもや家庭を取り巻く環境が大きく変化し、現状の家教のやり方の見直しを求める声が多く聞こえるようになった。そこで、家教の見直しを行うための検討材料として、市民センター館長及び市立小・中・特別支援学校の家庭教育学級長を対象としたアンケートを実施した。

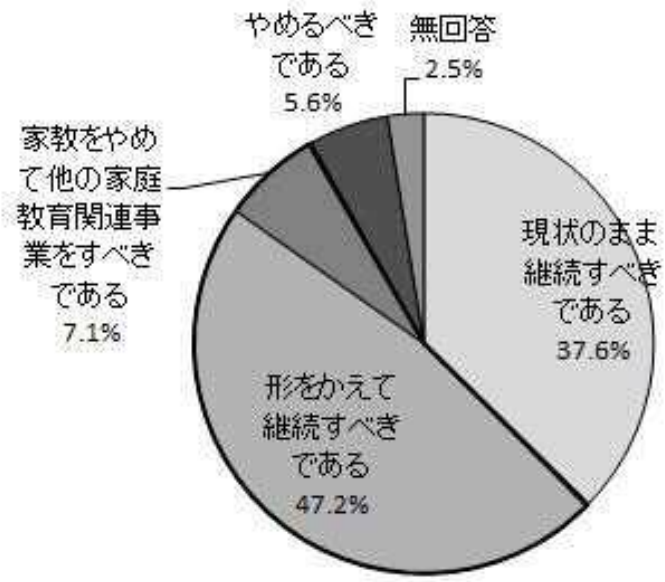
〔家庭教育学級長〕
１　調査対象者：市立小・中・特別支援学校の家庭教育学級長（２００校）
２　回答数：１９７校（回収率　９８．５%）
３　調査実施日：平成２９年１１月１３日～平成３０年１月３１日

〔市民センター館長〕
１　調査対象者：市民センター館長（１３０館）
２　回答数：１１７館（回収率　９０．０%）
３　調査実施日：平成２９年８月１７日～平成２９年８月３１日

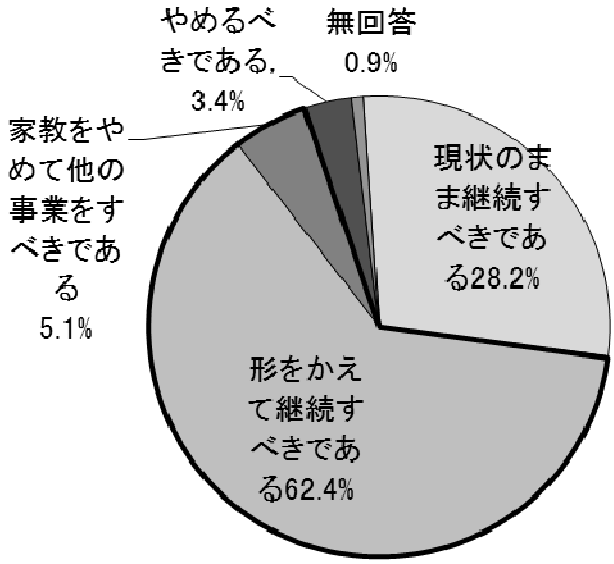
アンケート結果（要旨）

１　継続の必要性

［家庭教育学級長］



［市民センター館長］



２　意見（抜粋）

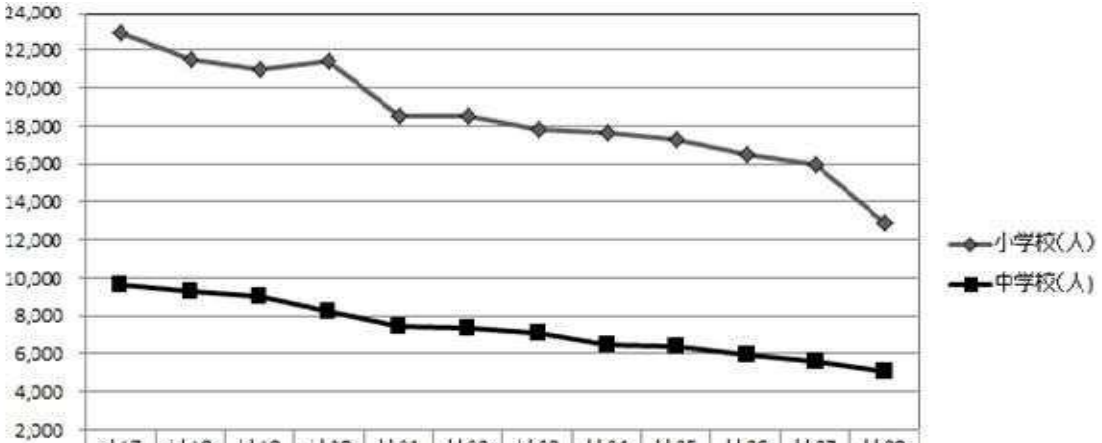
［家庭教育学級長］

・当校はＰＴＡ改革を行い、家教そのものを廃止している。必要な行*事は学校と市民*センターと同時開催することで生徒、保護者、地域が自然な形で同席できるとしている。開級式、閉級式など実施していない。形にこだわり、職員行事のレッテルを貼られ、ＰＴＡはおろか市民センターまで嫌われる原因となっている。事業は辞めるべき。中身のない行事を何度も行うより、意味ある活動を年１回でも良いから実施すべき。
・市で家教にまわす予算があるなら、学校にまわして、学校で特別な先生を呼んだり、バスを借りて見学に行ったりしたほうが良い。
・くじ引きで選出された委員が多く、会議に避ける時間が少なくモチベーションも低い。
・共働き世帯が多いので、会議が開きづらい。夜も子どもの習い事等で集まりにくい。
・「家庭教育学級」というネーミングがわかりにくい。
・企画会議をするだけで、負担となる。無理にやっている感じ。
・依頼文の発送からお礼状の作成まで、お役所仕事が多く無駄。ＰＴＡの仕事ではない。
・ボランティアで保護者がするには負担が大きすぎる。家教は必要ないし、なくしたほうが良い。金銭も時間ももったいないと思う。
・確かに負担は大きいかもしれないが、自分の子ども達が通う学校に家教を通じて知ることができる部分がたくさんあるから、続けていくべきだと思う。

［市民センター館長］

・参加者が固定しており、真に参加して欲しい保護者は参加しない現状では、家教の存続は厳しいと思う。
・企画はＮＰＯ法人と合同、運営をＮＰＯ法人に委託する。
・働いている保護者に有効な家教を、根本的に考え直す時期にきているように思う。
・「働きながら」、「子育てをしながら」のことで、担当者の負担が大きく、次年度の成り手がいない。講座に関しては、内容をあらかじめ役所で決め、選択制にしてはどうだろうか。
・保護者の負担が大きく軽減を考えていくことも必要。しかし、負担が大きいことを理由に何もしなければ何もできない。家教を一年間やり遂げた保護者の多くの方が「やって良かった。」という感想をもたれている。前向きで、やる気のある保護者の方が多くおられると思う。年間の実施回数を減らすなどして、やれる方がやれることを行っていくことが大切。

【参考：小・中学校における家庭教育学級参加者数の推移】



	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
小学校(人)	22,911	21,491	21,020	21,391	18,501	18,525	17,792	17,628	17,314	16,476	15,954	12,928
中学校(人)	9,660	9,309	9,022	8,214	7,449	7,352	7,111	6,502	6,393	5,942	5,573	5,045

平成２９年度第３回社会教育委員会議の主な意見

現状に関する意見

〇家庭教育学級を運営する中、委員を募集し参加してもらうのは、本当にいつも苦労する。

〇参加している方は、いつも同じような保護者の方であり、親子で聞いてもらうことはなかなか難しい。

〇負担のない形で夏休みに親子で参加でき、本当に聞いてためになる先生を紹介し、講演会を開く形を取っている学校もあると聞いている。

〇いろいろと親の悩みはあるが、それを吸い取り、テーマをどこに持っていき、そして企画していくまでの期間がとても短い。

〇市民センター館長アンケートでは、家庭教育学級を継続してほしいという意見が８割ほどある。ただ、本当に親のニーズや悩みが共有できる家庭教育学級にはなっていなく、委員になった親の議論がそこまでいかない。それは、年１回交代するのもあるし、そもそも、親の関係が希薄になっているからとも思う。

〇市民センター館長向けアンケートで家教は継続すべきかについて、形をかえて継続するべきという方がほとんどである。それは、今現在の形では継続すべきではないということになり、何か改善策を進めないと、現在の形では難しいと感じる。

見直しに関する意見

＜ネットワーク＞

〇本当に来てほしい、子どもへの虐待や育児放棄等で参加しない保護者や共働きの環境や社会での女性活躍などで参加できない保護者などについては、福祉部門や、労働行政部門との連携をしなければ、そこまでのきめ細かいことは、なかなか社会教育の領域だけでは難しい。そのため、チームで連携するところは連携していき、社会教育としては、社会教育の持ち味を活かしいくこともあると思う。

〇講座内容について、企業、ＮＰＯ等と連携し、共働きなどの働く親目線で企業等の子どもを持つ親等を対象にした講座などを実施する。また、地域とは生活体験やボランティア体験など通して地域の人たちとの交流を取り組む工夫も必要と思う。

＜地域の支援＞

〇地域支援をいかにネットワーク化する仕組みをつくるためには、コーディネートの役割が非常に大事である。生涯学習推進コーディネーター、学校支援地域本部事業での学校側のコーディネーターがいると思うがお互いのニーズを考え、いかに繋いで進めていくか、非常に大事なところである。

〇ネットワークについてだが、地域の子どもを地域で育てるという視点で連携していけると思う。親がとても忙しく、子どもの家庭教育まで手が回らない状況を、学校教育と市民センターなどの社会教育が連携し、そういう子どもたちの居場所を市民センターにつくっていく。その時に、学校のコーディネーター、市民センターもそして､社会福祉協議会やまちづくり協議会などを巻き込んで、市民センターで取り組んでいくことが重要と思う。

〇家庭教育学級委員になったときに孤立をする。そこをどのように、サポートできるか、社会教育主事(補)、生涯学習推進コーディネーター、学校、ＰＴＡ協議会の役員や地域の支援があって初めて達成感がある。

＜その他＞

〇保護者に家庭教育学級がなぜできたのか、なぜ必要なのか、参加することで学べることなど全市的に広報活動を行うことも必要と思う。

〇なかなか参加できず、子どもを預け働くことに精いっぱいな保護者がいる。そういう方にこそ啓発していき、学んでもらいたいと思うが、そこが大きな課題である。

〇小学校単位の実施は､厳しいという意見を聞くことがある｡中学校区や区単位、市単位とかで企画をもっと大きくする工夫も必要と思う。また、実施時期を学校行事と組み合わせて行なったり、開催する時間帯を夜にするなどの工夫も必要と思う。

〇学校によっては対応がバラバラであるが、他校で行う家庭教育学級でも参加可能なものなら(講演会など)、保護者以外(校区外や地域の人)でも参加できるようするなどの見直しも必要と思う。

家庭教育学級の見直しについて(事務局案)

１　家庭教育学級の役割

昭和３９年度より､保護者が家庭で子どもの教育をする心構えや子どもとの接し方､家庭教育上の共通問題を一定期間にわたって計画的に継続して集団で学習する場として重要な役割を果たしてきた。

２　家庭教育学級の課題

核家族世帯や共働き世帯の増加等､子どもや家庭を取り巻く環境が大きく変化し、家庭教育の支援の方法の多様性、変革が求められている。

現状の家庭教育学級（以下、家教という）のやり方の見直しを求める声が聞こえるようになった。そこで、家教に関するアンケート（H29.10 市民センター館長、H30.２家庭教育学級長）を実施。アンケート結果から、現状の家教について、以下の課題が浮き彫りになった。

①PTA 関係者の負担

学級開設・運営にあたり時間を要するため、働く保護者が増える中、中心的役割を担う PTA 関係者の負担が大きい。

②保護者の二極化傾向と参加者減少

家庭教育に関心のある保護者とそうでない保護者の二極化傾向にあり参加者が減少傾向にある。

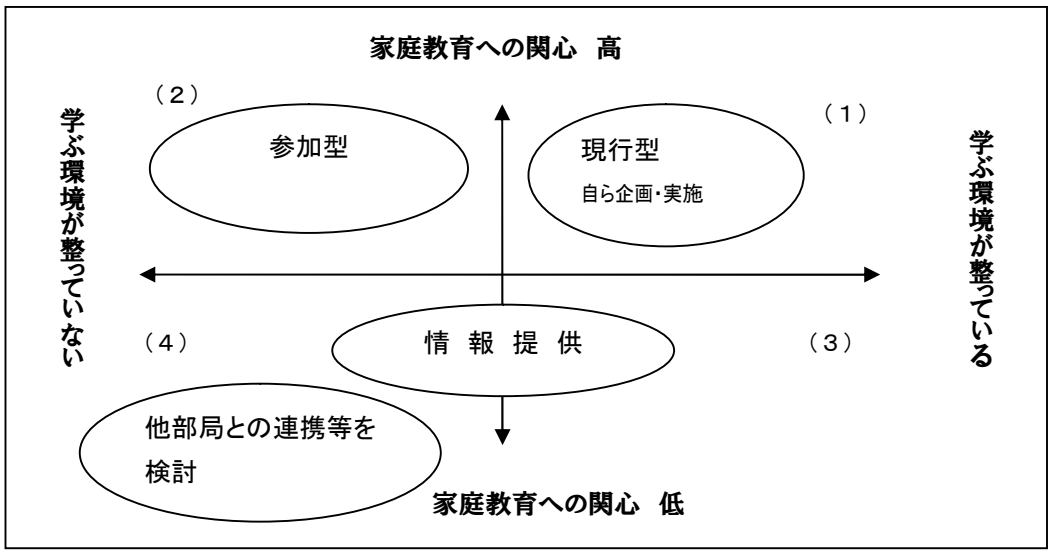
③目的に適っていない学習内容

本来の家庭教育学級の学習目的の意識が希薄となり､趣味実技的な内容に偏っている。

３　見直しの方向性

（１）各局で実施する家庭教育関連事業と連携・役割分担を考慮した上での、家庭教育学級の必要性

（２）働く保護者を含めたより多くの保護者に対する、学習機会と役立つ情報の提供

（３）PTA の負担軽減

【保護者の現状と多様な家庭教育支援の考え方】